

「廃業か、よみがえらせるかの半々の感触。やれるだけやってみよう」。2期連続で本業赤字を抱えた東京証券信用組合の経営再建を任された八尾和夫氏は、2015年6月の理事長就任時にこう覚悟を決めた。当局から収益性改善の報告が求められるなか、優良な有価証券の積み増しと証券担保ローンの推進で収益力を強化。中央区民向け個人ローンの推進は廃止した。「証券界のための信組」として原点に立ち返り、「知ってもらえれば使ってもらえる」と証券界での認知度向上に注力した。

「広報ツールが全くない」。道を開いたのは女子会で投資ノウハウを共有する「きんゆう女子。」（きん女）との出会い。17年春に運営会社「TOE THE LINE」（現

私のターニングポイント



60

インターン生を受け入れたきん女運営の鈴木万梨子社長（左から3人目）と八尾氏（同4人目、2024年9月3日、東京証券信組小会議室）



認知度向上で組合再建

きんゆう女子が、同じ経営トップ向けの組信組と同じ証券会館に入ったことで縁を深め、組合員から総代就任、広報連携協定につながった。

きん女がデザインし

生かして新装した組合ホームページには、

「番外編」できん女のインターン生を組合に受け入れる模様などを紹介。インスタグラムやフェイスブックでの情報発信の指南も受けた。八尾氏がアドバイザーとして参加したきん女の女子会の模様は、24年2月と8月にNHKで取り上げられて反響を呼んだ。

こうした広報策の一方で、八尾氏は自ら会員証券会社を行脚。組

東京証券信組
理事長

や お か ず お
八尾 和夫氏 (73)

(下)

金融マン人生の経験を総動員

会員でも未利用の証券会社の社長と面談し、事業内容を説明。業界の懇親会・ゴルフ会・行事などに可能な限り顔を出して交流を図った。

組合内では、顧客の面談記録などをまとめた個社別カルテを作成。トップから担当者に至るまで、顧客に関して得た情報をカルテにまとめ、営業推進会議で共有し推進につなげた。

「これまでの金融マン人生の経験を総動員した」結果、収益力は改善。17年3月期以降9期連続で本業黒字を成し遂げた。

25年5月には設立70周年を迎え、理事長就任10年を迎えた八尾氏。「証券界のスタートアップ企業支援やAI（人工知能）を中心としたデジタル化を進めたい」と挑戦は止まらない。（吉野拓郎）